

大正末と昭和初年における軽井沢の実像

— 医院診断書より見る —

江 川 良 武
清 原 透

診断書の類は医師が他人に渡す文書であって、自身の手元に置いておく診療録・いわゆるカルテとは異なる。

したがって医師は診断書の類を発給する際には控えを作っておくことが通例となっているようである。大正末から昭和初年にかけて、軽井沢町沓掛（現中軽井沢）で開業していた故清原医師も診断書類の控えと思われるものを作成していた。その多くは失われているが、大きさ二三×一五cm、厚さ四cmのノート一冊分だけが現在も筆者の一人、清原 透のもとに残されている。以下、それを単に「診断書」と称するが、大正一五年三月から昭和二年二月までの一年一〇ヶ月分（二ヶ月分、二四七件のみであり、期間が短くかつ当時の軽井沢地方の全体像を示しているという保証もない。しかしながら、当時の軽井沢における健康状態、売淫、変死・自殺などの実状を

生々しく物語っている。それは我が国一般の状況や、地元の軽井沢に細々と伝わる記憶と大きくは異ならないであろう。とはいえ地元に残る文書として貴重であり、また華麗な側面が専ら語られる軽井沢にあって、文字化されることの少ない大方の庶民の実状を、ありのままに伝えている点で価値があると考ええる。「診断書」はプライバシーの観点から公開できるものではないが、個々人の状況ではなく全体の傾向を見る統計資料として整理し直し、ここに公表することとした。また詳しい検討は後日の医療等の専門家によってなされることを期待しつつ、取りあえず予察的な分析を試みる。

故清原医師の姓名は清原芳司。岩村田生まれ、東京慈恵会医院医学専門学校で勉学、国家試験合格後、埼玉県春日部で開業したが、軽井沢在住の従兄の強い勧めによ

り大正九年に軽井沢に移住、清原医院を開業、昭和二五年まで活躍した。警察の嘱託医も努め、大正一二年に自殺した有島武郎の検死にも立ち会い、死亡検案書を残している。ただしこれは現在、某医師の手元にあるため、本稿の対象から除外し、前記の件数にも数えない。

「診断書」の表記は各種あって、死亡診断書、診断書、死胎検案書、死体検案書、健康診断書、身体検査書、健康証明書に分類される。死胎検案書、死体検案書は、それぞれ胎児や生まれた後の死亡を確認あるいはその原因を判断するもので、以前に自身が診察していない場合に発給する。死亡診断書とともに双方を「死亡診断書」として表1にまとめた。身体検査書、健康証明書は、それらを請求する組織の都合による名称であって、本質的に健康診断書と同じと思われる。単に診断書とあるものは全て健康診断書に含める。これら全てを「健康診断書」としてまとめ、男女それぞれを表2 A、表2 Bとした。いずれもプライバシーへの配慮から、当人の氏名、生年月日は全て捨象した。診断日は月までの記入にとどめた。住所の「軽井沢町」は今日と拡がりが異なっている。当時の軽井沢町は、追分、借宿、発地などの地域を含む西長倉村の領域を含んでいなかった。両者は本稿で論じる

はるか後年、昭和一七年になって合併、今日の軽井沢町の領域を形成した。当時の軽井沢町は新・旧軽井沢地区と沓掛地区に大きく別れ、両者は経済、社会条件がかなり異なっていたから、それぞれを軽井沢K、軽井沢Nと分けて表示した。現在の軽井沢町の地域以外については、郡または市の名までにとどめた。

以下、「死亡診断書」、「健康診断書」にわけて説明、分析し、最後にそれら「診断書」が示すことの意味を考える。

一 「死亡診断書」

(一) 死亡年齢

国がまとめた大正一四年の市町村別人口動態統計¹⁾の内、当時の軽井沢町と西長倉村分を表3に抜き書きする。軽井沢町、西長倉村の死亡者は、それぞれ八六人、二八人である。「死亡診断書」から軽井沢町と西長倉村に住所を有する者から死産を除外し、さらに期間を国の統計の一年に合わせるため大正一五年三月から昭和二年二月までの件数を取り出すと、それぞれ四三人、一四人となる。「したがって」「死亡診断書」は軽井沢町、西長倉村共、死亡者の丁度五〇%を占める。現在の軽井沢町域には、

表1 「死亡診断書」

事例	診断時	男女	死亡 年齢	住 所	本籍		死 因	書類の別
1	大正15年 3 月	男	0	—	—	病死	栄養不良	死亡診断書
2	大正15年 3 月	男	75	軽井沢 N	—	病死	萎縮腎	死亡診断書
3	大正15年 4 月	男	3	軽井沢 N	—	病死	慢性気管支炎 兼急性胃腸炎	死亡診断書
4	大正15年 4 月	男	3	西長倉村	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
5	大正15年 4 月	男	16	軽井沢 K	—	病死	肺結核	死亡診断書
6	大正15年 4 月	男	0	軽井沢 K	—	死産		死胎検案書
7	大正15年 4 月	男	48	軽井沢 N	—	病死	急性肺炎?	死体検案書
8	大正15年 4 月	男	15	軽井沢 K	—	病死	急性腹膜炎	死亡診断書
9	大正15年 4 月	男	23	軽井沢 K	—	病死	腸チフス	死亡診断書
10	大正15年 4 月	男	推定 27、8	—	—	自殺	饑死(南原)	死体検案書
11	大正15年 5 月	男	61	軽井沢 K	—	病死	慢性胃炎	死亡診断書
12	大正15年 5 月	男	77	軽井沢 K	—	病死	老衰	死亡診断書
13	大正15年 5 月	男	17	軽井沢 N	—	病死	脚気	死亡診断書
14	大正15年 5 月	男	52	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
15	大正15年 5 月	男	推定 60	—	—	自殺	首吊り(池の端)	死体検案書
16	大正15年 6 月	男	60	軽井沢 N	—	病死	心臓性喘息	死亡診断書
17	大正15年 6 月	男	1	軽井沢 K	—	病死	急性腸カタル?	死亡診断書
18	大正15年 6 月	男	0	軽井沢 K	—	病死	急性気管支肺炎	死体検案書
19	大正15年 6 月	男	推定 20	—	—	自殺	首吊り (長倉国有林)	死体検案書
20	大正15年 6 月	男	72	西長倉村	—	病死	黄疸	死亡診断書
21	大正15年 7 月	男	0	西長倉村	—	病死	急性腹膜炎	死体検案書
22	大正15年 7 月	男	70	軽井沢 K	—	自殺	首吊り(自宅)	死体検案書
23	大正15年 7 月	男	79	軽井沢 K	—	自殺	縊死(自宅)	死体検案書
24	大正15年 8 月	男	53	長野県上田市	—	病死	脳溢血(浅間山)	死体検案書
25	大正15年 8 月	男	11	軽井沢 N	—	病死	急性腸カタル?	死亡診断書
26	大正15年 8 月	男	75	軽井沢 N	—	病死	老衰	死体検案書
27	大正15年 8 月	男	20	長野県更級郡	—	自殺	急性砒素中毒 (寄留先)	死亡診断書
28	大正15年 8 月	男	61	西長倉村	—	病死	胃癌兼黄疸	死亡診断書
29	大正15年 8 月	男	32	軽井沢 N	茨城県	病死	肺結核	死亡診断書
30	大正15年 9 月	男	推定 25	—	—	自殺	頸動脈切断 (子浅間)	死体検案書
31	大正15年10月	男	29	軽井沢 K	—	病死	脚気	死亡診断書
32	大正15年11月	男	69	軽井沢 K	—	病死	慢性腎臓炎	死亡診断書
33	大正15年11月	男	60	軽井沢 K	—	病死	僧帽弁閉鎖不全	死亡診断書
35	大正15年12月	男	0	軽井沢 N	—	死産		死胎検案書
36	大正15年12月	男	64	—	—	病死	脳溢血	死亡診断書
37	大正15年12月	男	68	軽井沢 N	—	病死	推定脳溢血	死体検案書
38	昭和元年12月	男	0	軽井沢 K	—	病死	肝臓腫大症	死体検案書
39	昭和2年 1 月	男	0	西長倉村	—	病死	急性腸カタル	死亡診断書
40	昭和2年 1 月	男	0	軽井沢 K	—	変死	窒息死 (便壺に分娩)	死体検案書
41	昭和2年 1 月	男	56	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書

42	昭和2年2月	男	58	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書
43	昭和2年2月	男	?	軽井沢 N	—	病死	肺結核	死亡診断書
44	昭和2年2月	男	17	軽井沢 K	—	病死	流行性感冒	死亡診断書
45	昭和2年2月	男	57	軽井沢 K	—	病死	老人性肝臓硬化症	死亡診断書
46	昭和2年2月	男	57	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
47	昭和2年3月	男	65	(方)	—	病死	老衰	死亡診断書
48	昭和2年3月	男	15	軽井沢 K	—	病死	麻疹	死亡診断書
49	昭和2年3月	男	0	西長倉村	—	病死	流行性感冒	死体検案書
50	昭和2年3月	男	61	軽井沢 N	—	病死	気管支肺炎	死体検案書
51	昭和2年3月	男	59	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書
52	昭和2年3月	男	53	西長倉村	—	病死	脳溢血	死亡診断書
53	昭和2年3月	男	68	軽井沢 N	—	病死	老衰	死亡診断書
54	昭和2年3月	男	57	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
55	昭和2年4月	男	53	群馬県碓氷郡	—	病死	推定肺ジストマ	死体検案書
56	昭和2年4月	男	推定 28	—	—	自殺	饑死(南原)	死体検案書
57	昭和2年4月	男	2	軽井沢 N	—	病死	麻疹後気管支肺炎	死亡診断書
58	昭和2年4月	男	39	軽井沢 K	—	病死	脊椎前角炎	死亡診断書
59	昭和2年4月	男	54	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書
60	昭和2年4月	男	27	西長倉村	—	病死	肺結核	死亡診断書
61	昭和2年5月	男	1	西長倉村	—	病死	麻疹兼気管支肺炎	死亡診断書
62	昭和2年5月	男	52	軽井沢 N	—	病死	流行性感冒	死亡診断書
63	昭和2年5月	男	21	西長倉村	—	病死	急性関節ロイヤ チス兼心臓膜炎	死亡診断書
64	昭和2年5月	男	1	西長倉村	—	病死	亜急性腸カタル	死体検案書
65	昭和2年6月	男	57	軽井沢 K	—	病死	胃癌	死亡診断書
66	昭和2年6月	男	0	軽井沢 N	—	病死	初生児黄疸	死亡診断書
67	昭和2年6月	男	59	軽井沢 K	—	病死	喘息兼衰弱	死亡診断書
68	昭和2年6月	男	45	軽井沢 N	—	病死	急性脳膜炎	死亡診断書
69	昭和2年6月	男	0	軽井沢 K	—	病死	初生児黄疸	死亡診断書
70	昭和2年6月	男	1	西長倉村	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
71	昭和2年6月	男	1	軽井沢 K	—	病死	脳水症	死亡診断書
72	昭和2年7月	男	48	軽井沢 N	—	病死	脊椎前角炎	死亡診断書
73	昭和2年7月	男	1	西長倉村	—	病死	疫咳兼麻疹	死亡診断書
74	昭和2年7月	男	3	軽井沢 N	—	病死	急性胃腸カタル	死亡診断書
75	昭和2年7月	男	61	軽井沢 N	—	病死	胃癌	死亡診断書
76	昭和2年7月	男	壮年 以上	—	—	自殺?	白骨化、不明 (小浅間)	死体検案書
77	昭和2年8月	男	25	軽井沢 K	—	病死	胃潰瘍	死亡診断書
78	昭和2年8月	男	0	西長倉村	—	病死	初生児黄疸	死亡診断書
79	昭和2年8月	男	35	軽井沢 N	—	病死	肺膿瘍	死亡診断書
80	昭和2年8月	男	0	軽井沢 N	—	病死	消化不良	死亡診断書
81	昭和2年9月	男	0	軽井沢 N	—	病死	急性胃腸カタル	死亡診断書
82	昭和2年10月	男	40	西長倉村	—	病死	慢性胃カタル	死亡診断書
83	昭和2年10月	男	67	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
84	昭和2年11月	男	29	方一軽井沢 N	静岡県	病死	肺気腫	死亡診断書
85	昭和2年11月	男	1	軽井沢 N	—	病死	発育不良	死体検案書
86	昭和2年11月	男	0	軽井沢 N	—	病死	発育不良	死亡診断書
87	昭和2年12月	男	69	軽井沢 K	—	病死	老衰	死亡診断書

1	大正15年3月	女	71	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書
2	大正15年3月	女	0	軽井沢 K	—	病死	初生児黄疸	死体検案書
3	大正15年4月	女	0	西長倉村	—	病死	発育不良	死体検案書
4	大正15年4月	女	0	西長倉村	—	病死	急性胃腸カタル	死亡診断書
5	大正15年5月	女	0	西長倉村	—	病死	?硬病	死体検案書
6	大正15年5月	女	0	軽井沢 N	—	病死	発育不良	死体検案書
7	大正15年6月	女	0	西長倉村	—	病死	発育不良	死体検案書
8	大正15年7月	女	18	西長倉村	—	病死	肺結核兼急性胃腸炎(女工)	死体検案書
9	大正15年7月	女	0	西長倉村	—	病死	急性腹膜炎	死亡診断書
10	大正15年8月	女	19	(方) 軽井沢 K	—	病死	急性腹膜炎兼中耳炎	死亡診断書
11	大正15年9月	女	32	西長倉村	—	病死	慢性脊髄炎	死亡診断書
12	大正15年10月	女	0	軽井沢 N	—	死産		死胎検案書
13	大正15年10月	女	5	西長倉村	—	病死	急性腎臓炎	死亡診断書
14	大正15年10月	女	25	軽井沢 N	—	病死	肺結核	死亡診断書
15	大正15年10月	女	15	軽井沢 K	—	病死	肺結核(女工)	死亡診断書
16	大正15年12月	女	73	西長倉村	—	病死	脳溢血	死亡診断書
17	大正15年12月	女	2	軽井沢 N	—	病死	急性腎臓炎	死亡診断書
18	大正15年12月	女	1	軽井沢 N	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
19	大正15年12月	女	0	軽井沢 K	—	病死	発育不良(奇形児)	死亡診断書
20	大正15年12月	女	0	北佐久郡	—	死産		死胎検案書
21	昭和2年1月	女	0	軽井沢 N	—	死産		死胎検案書
22	昭和2年1月	女	20	軽井沢 K	—	病死	乾性肋膜炎兼腹膜炎	死亡診断書
23	昭和2年1月	女	56	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
24	昭和2年2月	女	19	軽井沢 K	—	病死	結核性腹膜炎	死亡診断書
25	昭和2年2月	女	0	軽井沢 K	—	死産		死胎検案書
26	昭和2年3月	女	71	西長倉村	—	病死	老衰	死亡診断書
27	昭和2年3月	女	23	軽井沢 K	—	病死	流行性感冒	死亡診断書
28	昭和2年3月	女	0	軽井沢 N	—	病死	発育不良	死亡診断書
29	昭和2年4月	女	0	西長倉村	—	死産		死胎検案書
30	昭和2年4月	女	0	軽井沢 K	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
31	昭和2年4月	女	40	軽井沢 N	—	変死	眼窩複雑骨折	死亡診断書
32	昭和2年4月	女	1	軽井沢 N	—	病死	麻疹	死亡診断書
33	昭和2年5月	女	39	軽井沢 K	—	病死	慢性腸カタル	死亡診断書
34	昭和2年6月	女	推定40	—	—	自殺	首吊り(子浅間)	死亡診断書
35	昭和2年6月	女	49	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死体検案書
36	昭和2年6月	女	1	軽井沢 K	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
37	昭和2年7月	女	32	軽井沢 N	—	病死	急性可能性腹膜炎	死亡診断書
38	昭和2年7月	女	1	西長倉村	—	病死	急性気管支肺炎	死亡診断書
39	昭和2年7月	女	22	軽井沢 N	—	病死	腎臓結核	死亡診断書
40	昭和2年8月	女	42	軽井沢 N	—	病死	脳溢血	死亡診断書
41	昭和2年9月	女	73	軽井沢 N	—	病死	老衰	死亡診断書
42	昭和2年10月	女	52	軽井沢 K	—	病死	脳溢血	死亡診断書
43	昭和2年10月	女	46	軽井沢 N	—	病死	急性脳膜炎	死亡診断書
44	昭和2年12月	女	57	軽井沢 K	—	病死	肝臓硬化	死亡診断書
45	昭和2年12月	女	0	軽井沢 K	—	病死	発育不良	死亡診断書

表2A 健康診断書(男)

事例	診断日	年齢	住所	本 籍	診断内容	書類の別など
1	大正15年3月	21	群馬県碓氷郡		トラホームなし	
2	大正15年3月	13	軽井沢 K		異常なし	身体検査書
3	大正15年4月	30	軽井沢 K		異常なし	
4	大正15年4月	22	方-軽井沢 K	群馬県佐波郡	異常なし	
5	大正15年4月	18	軽井沢 K		異常なし	
6	大正15年4月	23	軽井沢 K		異常なし	
7	大正15年4月	54	—		脳溢血	
8	大正15年5月	23	軽井沢 N		健康	
9	大正15年5月	63	西長倉村		脳溢血	
10	大正15年5月	21	方-軽井沢 K		左側頸部打撲傷	
11	大正15年6月	27	方-軽井沢 N	新潟県中頸城郡	健康	星野嘉助方
12	大正15年6月	26	方-軽井沢 N	長野県北佐久郡	健康	星野嘉助方
13	大正15年7月	28	女方-軽井沢 N	新潟県中頸城郡	健康	
14	大正15年7月	28	—	—	慢性腎臓炎	
15	大正15年7月	24	方-軽井沢 K		健康	身体検査書
16	大正15年7月	19	軽井沢 K		健康	身体検査書
17	大正15年7月	31	軽井沢 K		健康	身体検査書
18	大正15年7月	29	方-軽井沢 K		健康	
19	大正15年7月	25	方-軽井沢 K		健康	
20	大正15年7月	19	軽井沢 K	新潟県西蒲原郡	健康	
21	大正15年7月	17	女方-軽井沢 N	長野県南佐久郡	健康	
22	大正15年8月	16	軽井沢 K		盲腸炎	
23	大正15年8月	22	軽井沢 N		肺結核	
24	大正15年8月	22	女方-軽井沢 N	埼玉県秩父郡	健康	
25	大正15年9月	23	方-軽井沢 K	岡山県上房郡	顔面擦過傷	野沢マーケット
26	大正15年9月	31	軽井沢 N		健康	
27	大正15年9月	46	西長倉村		偏頭痛	
28	大正15年9月	19	軽井沢 K	長野県南佐久郡	健康	
29	大正15年9月	34	軽井沢 K		脳神経衰弱	
30	大正15年10月	22	方-軽井沢 K	群馬県吾妻郡	健康	
31	大正15年10月	22	軽井沢 K		健康	身体検査書
32	大正15年10月	41	軽井沢 K		健康	
33	大正15年11月	54	軽井沢 K		脳溢血後右半身不随	
34	大正15年11月	31	女方-軽井沢 N	群馬県前橋市	健康	
35	大正15年11月	37	軽井沢 K		頭部打撲傷	
36	昭和2年1月	30	上田市	軽井沢 N	健康	
37	昭和2年2月	27	女方-軽井沢 N	北海道旭川市	健康	
38	昭和2年2月	30	—		肛門周囲炎	
39	昭和2年2月	27	—		健康	身体検査書
40	昭和2年2月	45	軽井沢 N		健康	
41	昭和2年3月	19	—		左目失明、右目不良	体格検査書
42	昭和2年4月	16	軽井沢 N		神経衰弱	
43	昭和2年5月	26	軽井沢 K		健康	健康証明書
44	昭和2年5月	18	—		肺炎カタルの疑い	証明書
45	昭和2年5月	32	軽井沢 N		頭部裂傷	
46	昭和2年6月	35	—		流行性感冒兼肺炎	
47	昭和2年6月	36	—		爪甲剥離	
48	昭和2年7月	17	—		右中指及び環指挫創	
49	昭和2年7月	24	方-軽井沢 N	長野県上田市	健康	
50	昭和2年8月	3	軽井沢 K	長野県小県郡	女性の特徴を完全に具備	
51	昭和2年9月	25	—		打撲傷兼切創	喧嘩?
52	昭和2年9月	29	—		打撲傷兼切創	喧嘩?
53	昭和2年3月	30	—		脊椎カリエス	

表2B 「健康診断書」(女)

事例	診断日	年齢	住 所	本 籍	診断内容
1	大正15年3月	24	女方-軽井沢 N	新潟県新潟市	健康
2	大正15年4月	16	方-軽井沢 N	新潟県南魚沼郡	健康
3	大正15年5月	22	女方-軽井沢 N	群馬県勢多郡	健康
4	大正15年5月	25	方-軽井沢 N	群馬県前橋市	子宮腔部び乱
5	大正15年5月	22	方-軽井沢 N	群馬県高崎市	健康
6	大正15年5月	20	女方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
7	大正15年5月	22	—	新潟県南魚沼郡	健康
8	大正15年5月	28	方-軽井沢 N	山形県東村山郡	健康
9	大正15年5月	24	女方-軽井沢 N	新潟県南魚沼郡	健康
10	大正15年5月	22	女方-軽井沢 N	群馬県碓氷郡	子宮腔部び乱
11	大正15年5月	24	方-軽井沢 N	福岡県今立郡	健康
12	大正15年5月	26	女方-軽井沢 N	茨城県多賀郡	健康
13	大正15年6月	22	方-軽井沢 N	群馬県高崎市	健康
14	大正15年6月	21	軽井沢 K	—	健康
15	大正15年6月	15	女方-軽井沢 N	群馬県高崎市	健康
16	大正15年6月	26	方-軽井沢 N	新潟県刈羽郡	健康
17	大正15年6月	25	(星野嘉助方) 軽井沢 N	新潟県中頸城郡	健康
18	大正15年6月	15	(星野嘉助方) 軽井沢 N	—	健康
19	大正15年6月	26	女方-軽井沢 N	北海道加賀別郡	健康
20	大正15年6月	48	軽井沢 K	—	妄想狂
21	大正15年7月	20	方-軽井沢 N	群馬県勢多郡	健康
22	大正15年7月	18	方-軽井沢 N	埼玉県西葛飾郡	健康
23	大正15年7月	26	女方-	埼玉県熊谷町	健康
24	大正15年7月	27	女方-	三重県都賀郡	健康
25	大正15年7月	33	女方-	群馬県勢多郡	健康
26	大正15年7月	21	方-軽井沢 N	神奈川県横須賀市	健康
27	大正15年7月	17	女方-軽井沢 N	群馬県前橋市	健康
28	大正15年7月	15	—	—	軟性下〇〇〇
29	大正15年7月	28	女方-軽井沢 N	長野県上伊那郡	健康
30	大正15年7月	30	女方-軽井沢 N	岐阜県本巣郡	健康
31	大正15年7月	21	女方-軽井沢 N	群馬県多野郡	健康
32	大正15年7月	22	方-軽井沢 N	茨城県茨城郡	健康
33	大正15年8月	19	女方-軽井沢 N	千葉県因幡郡	健康
34	大正15年8月	15	女方-軽井沢 N	新潟県南魚沼郡	健康
35	大正15年9月	20	女方-	群馬県群馬郡	健康
36	大正15年9月	17	方-軽井沢 N	愛知県豊橋市	健康
37	大正15年9月	29	北佐久郡	—	慢性胃カタル
38	大正15年9月	17	女方-軽井沢 N	—	子宮腔部び乱
39	大正15年11月	17	女方-軽井沢 N	福島県田村郡	健康
40	大正15年11月	24	女方-軽井沢 N	群馬県勢多郡	健康
41	大正15年11月	29	方-軽井沢 N	栃木県足利郡	健康
42	昭和元年12月	18	軽井沢 N	—	健康
43	昭和2年3月	18	女方-軽井沢 K	群馬県前橋市	健康
44	昭和2年3月	15	女方-軽井沢 N	埼玉県大里郡	健康
45	昭和2年2月	23	女方-軽井沢 N	北海道札幌市	健康
46	昭和2年4月	23	女方-軽井沢 N	群馬県前橋市	健康
47	昭和2年4月	27	横濱市	—	顔面慢性湿疹
48	昭和2年4月	23	女方-軽井沢 N	長野県南佐久郡	健康
49	昭和2年5月	17	女方-軽井沢 N	群馬県多野郡	健康
50	昭和2年5月	18	女方-軽井沢 N	群馬県群馬郡	健康
51	昭和2年5月	23	女方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
52	昭和2年6月	16	方-軽井沢 N	群馬県碓氷郡	健康
53	昭和2年6月	15	女方-軽井沢 N	群馬県群馬郡	健康
54	昭和2年7月	16	女方-軽井沢 N	群馬県勢多郡	健康
55	昭和2年7月	18	女方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
56	昭和2年7月	19	方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
57	昭和2年7月	28	女方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
58	昭和2年8月	22	軽井沢 N	—	急性胃腸カタル
59	昭和2年8月	16	女方-軽井沢 N	群馬県北甘葉郡	健康
60	大正15年9月	23	(箱根土地KK方) 軽井沢 N	—	急性胃腸炎
61	大正15年11月	23	方-軽井沢 N	群馬県高崎市	健康
62	昭和2年12月	—	女方-軽井沢 K	栃木県上野原郡	健康

「診断内容」の列に斜体文字で示した者を「酌婦(密淫売従事者)」とみなす

表3 大正14年人口動態統計

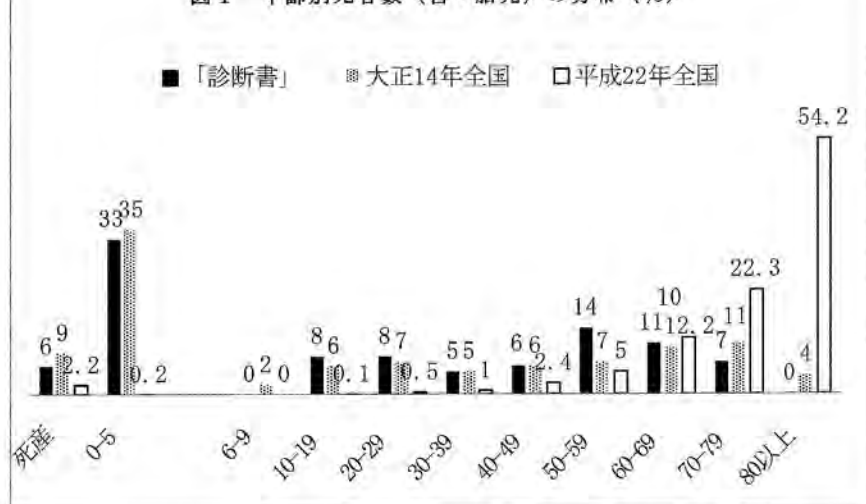
人口 T14/10/1		出生			死産			死亡		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
軽井沢町	5310	162	76	86	19	12	7	86	49	37
西長倉村	1968	89	36	53	4	2	2	28	16	12

総理府統計局資料

当時、清原医院の外にも複数の医院が存在した。旧軽井沢地区には軽井沢診療所（マンロー病院）、西長倉村には里見医院がそれぞれ大正五又は六年、大正四年に開業している。また地域外の小諸や岩村田で受診しようとする者もいたであろう。それにも関わらず半分程度を占めることは、清原医院が軽井沢地域の中核的な医療機関であったことを示している。

図1に「死亡診断書」が示す全死亡数（胎児を含む）の内、各年齢層がどの程度のパーセンテージを占めるかを、大正一四年⁽³⁾及び平成二二年⁽⁴⁾の全国統計と共に示す。生者に対する死者の比である死亡率とは異なることに注意されたい。「死亡診断書」と平成二二年の数値との違いはすさまじい。〇―五歳の死亡数が三二％に対し平成二

図1 年齢別死者数（含・胎児）の分布（％）



二年〇・二％と一桁以上に下っている。「死亡診断書」における八〇歳以上がゼロは、概ね七〇歳代以下で死亡していることを示すが、平成二年は五四・二％に達する。死産は死亡診断書では六％に達するが平成二年では約一／三の二・二％に留まる。「死亡診断書」を大正一四年の全国平均数値と比較すると、死産と乳幼児の死亡がやや少なくなっている。ところが大正十四年十一月二十日に刊行された軽井沢町報によると、国の統計が示す死産率と幼児死亡率は、全国平均が六・九％、八・六％に対して、町内ではそれぞれ八・二％、九・六％と高い。前述したように「死亡診断書」は死産・死者の内訳であるのに対して国の統計は、生者に対する死者の比であるから、この方が医療水準を客観的に示すものである。軽井沢の成績は全国平均より劣っていることが明らかである。「死亡診断書」では六〜六九歳までいずれの年齢層も全国平均より若干高くなっているが、それ以上では全国の方が高い。これは軽井沢での七〇代以上の生存者が全国よりかなり少ないことを示している。

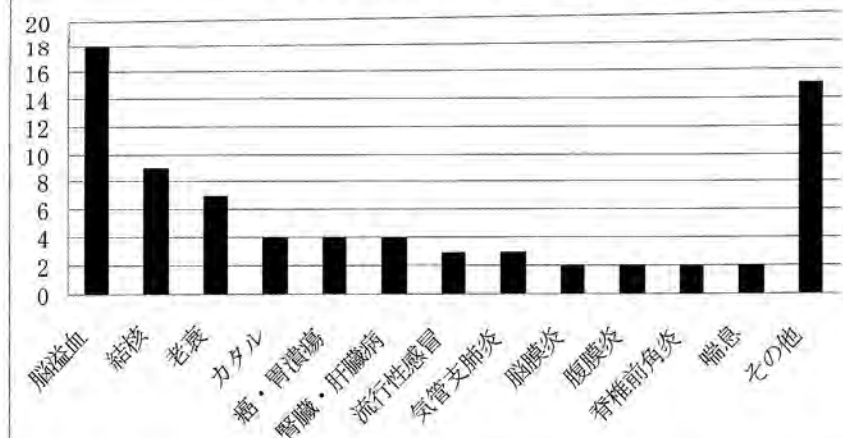
死体検案書は、医師法により生前の診察をせずして死亡診断する場合に発給される。従って死産や自殺がこれにあたるのは当然であるが、脳溢血も死体検案書が出さ

れている場合が多く、急死ゆえ医療を受ける時間がなかったであろう。さらに高齢者の死者の多くにも、慢性病であっても死体検案書が出されている。死が予見される場合であっても、高齢の場合は経済的な理由で医師に罹ることを避けたものと思われる。

(二) 死 因

六歳以上の死者について、以下に死因を多い順から並べる(括弧内の数字は死者数)。脳溢血(含・推定、一八)、結核性肺炎(含・腎臓結核、九)、老衰(七)、胃・腸カタル(四)、癌・胃潰瘍(四)、腎臓・肝臓病(四)、流行性感冒(三)、気管支肺炎(三)、脚気(二)、脳膜炎(二)、腹膜炎(二)、脊椎前角炎(ポリオ、二)、喘息(二)、以下省略(図2)。昭和二年の全国統計では、多い順から下痢・腸炎、脳出血・脳軟化、老衰、肺結核、腎臓炎、癌・悪性腫瘍、脳膜炎、心臓病となる。軽井沢の傾向と基本的に同じであるが、違いを強調すれば脳出血が多く、カタル系が少ない。寒さの故であろうか。戦後の軽井沢医療の一端を担った田中は「軽井沢は本州屈指の寒冷地だけあって、高血圧症・脳卒中患者が多かったと思っています」と記している。

図2 病死因別人数（五歳以上）



全国と共通して今日の状況と異なるのは、心臓疾患、癌が少ないこと、老衰が多いことなどである。軽井沢では、老衰死は六〇代で出現している。結核は死因の第二位を占め、その中には二名の製糸女工が含まれている。製糸工場は換気の劣悪さ故に多くの結核患者を生んだことが知られているが、軽井沢にもその例があった。一般に製糸女工を多く工場に送り出している町村は、女の人口比が少なくなる。軽井沢も女の方が男よりやや少ないが、その程度は顕著でない。これからも、軽井沢から製糸女工になった数は他町村に比べて少なかったと思われる。仮にもっと多数であったなら、結核による死者はそれだけ増えていたであろう。一方で急性の感染症が思いの外少なく、腸チフスが一件だけというのは、行政で鋭意進められていた感染症対策の成果とも考えられる。

清原医師の長女、ふみ氏は次のように記している。

「町の人達が医者に診て貰うには本当に最後の時のような状態の時が多かったです。……医者への払いも盆とか暮れだけの『つけ払い』でした。それでも半分くらいしか払えなかったそうです。」「死亡診断書」に見る乳幼児の高い死亡率や寿命の短さは、貧困故であったことは間違いない。この状況は全国の至る所に見られた現象

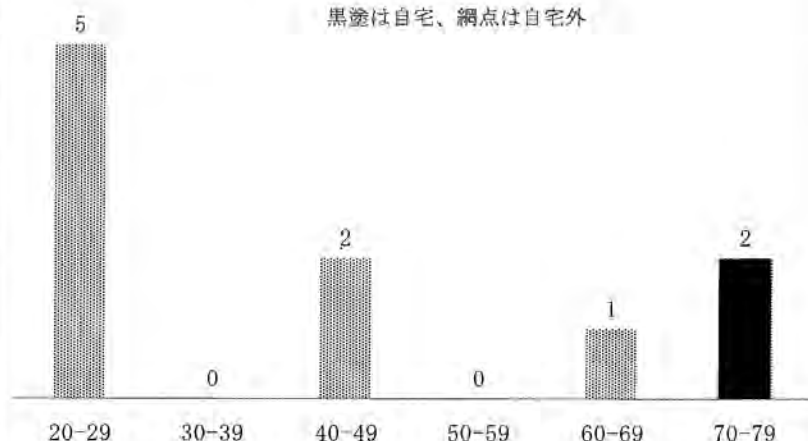
であろうが、軽井沢が全国平均よりさらに成績が悪かったのは、他よりもさらに貧困であった可能性が高い。

(三) 自殺・変死・事故死

二〇ヶ月の間の自殺者・変死・事故死は男一人、女二人、合計三人を数える。圧倒的に男が多く、時代を超えて変わらぬ傾向である。清原医師が軽井沢地域の変死・自殺の全てを扱ったという保証はないが、警察嘱託医だったから大方は彼が検死書を出したものであるう。人口七二七八人の軽井沢で変死・自殺者一人三人というのは極めて多い。簡単のため全てを自殺者とする、一〇万人当たりに換算して、大正一四年の全国で二五・〇一人であるが、軽井沢では一七九人となり全国平均の実に五倍以上に達する。ただし軽井沢町民であることが明らかな自殺者に限ると二名にとどまるから、一〇万人当たり二七人となりほぼ全国平均と合致する。その二名はいずれも七〇歳台の高齢者であり、自宅での自殺である(図3)。その他の者は住所が不明であり年齢も地元(図3)の自殺者と対照的に若く、二〇代、四〇代がそれぞれ五〇%、二〇%を占める。さらに轢死が少なくないものの観光地でもある小浅間山を死に場所とする者が多い。したがっ

図3 自殺者の年齢別人数

黒塗は自宅、網点は自宅外



て前二名の外は他の地方から来たと思われる。なお信濃毎日新聞に自殺者の記事を探したが、当時は特に話題性のある事例を除き自殺の掲載がなく、追加情報を得ることはできなかった。

軽井沢町報・昭和二年七月二〇日号に、「近頃浅間自殺者の数が夥しく増加し、それが為に地元警察の厄介が並大抵でないので、之が防止策として本年は特に登山期中、峯の茶屋に巡二名を派遣して防止することになり、自然それが為に電話新設の必要が起ったので直ちに工事着手するそうである。」（読みやすいように句読点を追加、

以下引用文は同様）とある。先の小浅間山での自殺者が多かったことに加えて、火口での投身により行方不明となり、結果的に統計に現れないものも多かったのではないか。町報・昭和二年十一月二〇日号には、「まさか有島武郎氏の死が原因した訳でもあるまいが、この頃軽井沢に死を求める者が非常に増えて平田衛生主任の如きは太こぼしである。既に最近に至っても矢ヶ崎踏切で一人、それに引き続いて十七日の如きは沓掛で一人旧軽井沢で男女一組の三人の自殺者があった。」とある。大正の末期から昭和一〇年ごろまでは、戦前の自殺高揚期であったが、昭和三〇年頃はそれを上回る現象があった。⁽¹⁰⁾ 軽井

沢病院誌には複数の方が違口同音に自殺、同未遂対応が大変だったことを記している。例を挙げれば、笹原は「その頃、どうした訳か、自殺の志願者が多くて、胃洗浄なども頻繁にありました。あの頃の軽井沢は天国に近い憧れの地だったようです。」と書いている。自殺者の何倍かの未遂者がいたであろう事は容易に想像できる。廣野は「軽井沢でどうしても忘れられないのは検死です、病死が一番多いのですが自殺も多く、若い頃は現場まで必ず行ったものです。」とする。土屋は「高嶺先生の時代は（昭二七―昭三二勤務）、浅間・小瀬方面での自殺・心中が週に一件か二件あり、車のない時代で、その検死にみな苦労したものです」とある。軽井沢は大正・昭和を通じて自殺の名所であったようである。

二 「健康診断書」

「健康診断書」は、男の場合は健康診断書ばかりでなく身体検査書、健康証明書で構成されるが、女は全員が健康診断書である。これが暗示するように、また以下に説明するように、「健康診断書」の用途は、男で広く、女で狭いと考えられる。

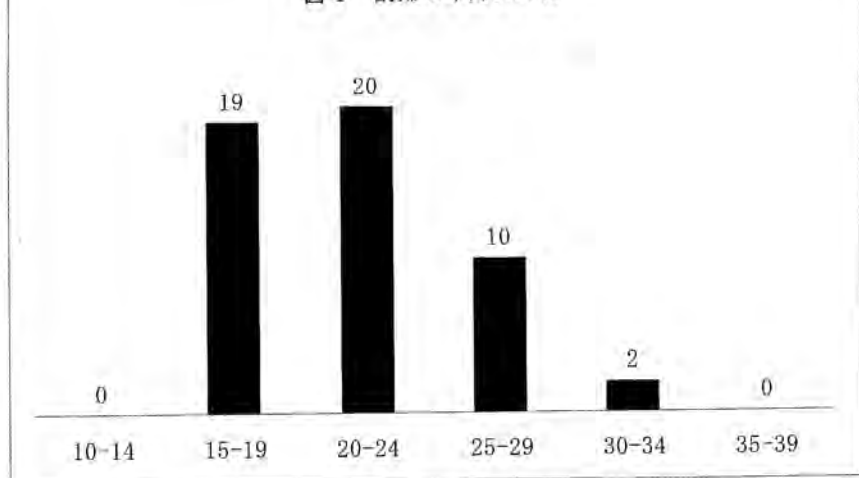
「健康診断書」は、一般的に雇用や公休を取るため第

三者に提示するためであろうから、幼児・少年、老人を扱うものは少なく、一五歳から三四歳に集中する傾向が見られる。とはいえ男の場合は少数とはいえ全年齢層にまたがっており、また健康であることの証明ばかりでなく公休を取るなどのためであろう、疾病、怪我の証明も含まれる。これに対して女の場合は四八歳の一人を除くと全員が一五歳から三三歳の間にいることが特異である。また本籍が町外であって、〇〇方となっている者が全体の八四%を占め、かつ女性方が七三%と圧倒的である。

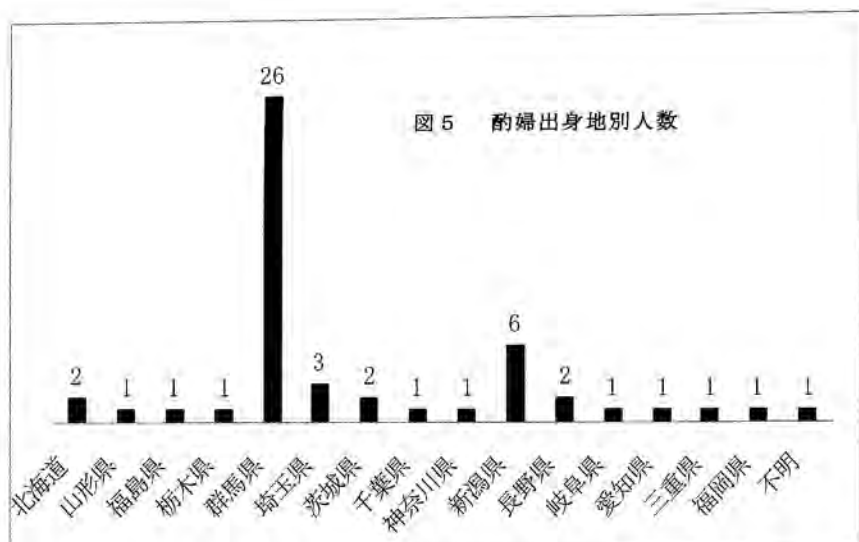
ちなみに男の場合は、そもそも寄留が少なく〇〇方は全体の二八%であり、かつ女性方はさらにその三三%にとどまる。女に対して発給されているのは、全てが健康診断書であり、住所が〇〇方、年齢が一五歳〜三三歳の者に限れば判定は九四%が健康、その他は全て子宮腫部びらんである。軽井沢町報・昭和二年九月二〇日二六号は、「秋風しきりに吹きすさぶこの頃の沓掛花柳界」の見出しの下に、「浅間高嶺に秋風が訪れてすすきの穂先が白銀とそよぐ頃になると、余りに華やかな五十幾日かの過去をもった我等はそれだけ一層凋落の悲哀を感じられる。併しそれにも増して物の哀れをとどめているのは沓掛花柳界の昨今であろう。紅燈影うすくやがて高ばらに霜は

むずび粉雪は降る。そして闇にうごめく彼女達の上に冷たく降りかかるであろう。」とある。これは沓掛に一軒、二軒にとどまらない「花柳界」があったことを示すものであり、戦後もかなりの間、売春を伴う飲食店が相当数あったことが、ダルマ横丁の地名と共に地元民に記憶されている。なお、軽井沢町報・昭和二年一月二十日号は、軽井沢町議会の議決事項の中に、「芸妓指定地答申の件」のあることを報じている。こうした動きはそれまでもあったものの、⁽¹⁴⁾反対運動などもあって軽井沢にはいわゆる公娼施設は存在しなかった。これより「健康診断書」の住所が〇〇方、年齢が一五歳〜三三歳の女は、しっかりとした企業の従業員を除けば、全て飲食店の酌婦であり、大方はいわゆる密淫売に従事していたと考えられる。表2Bにおいて「診断内容」の列に斜体文字で示したのをそれと見なした。少ない目に見ても総計五一名の多数にのぼり、一五歳より一九歳が一九人に及ぶのは胸が痛む(図4)。花柳界には雇用主を母親とする擬制が見られるが、住所の大方が女性方であるのはその反映であろう。花柳病予防法が昭和二年に制定され、「診断書」発給の後、同三年に施行されている。この第五条二項に「伝染の恐れある花柳病に罹っている事を知りながら売淫の

図4 酌婦の年齢別人数



斡旋をした者、あるいは売淫をした者は、……懲役又は罰金に処す（口語に変換）」とあるが、「診断書」の時期（大正一五年（昭和二年））には間に合っていない。それ以前にも警察による明治一五年の密淫売懲罰則、明治一八年の密淫売処分心得などがあるが、売淫者の健康診断を義務付けた法令は見当たらない。しかし長野県史によれば、「自衛的」健康診断を励行させていたという。密淫売、密淫売業者の取り締まりは充分ではなかったが、それでも検挙者は相当あったという。そして検挙者の健康診断をしたところ、性病の保有者が昭和二年七・五%、同五年一〇・五%あった。⁽⁶⁾ 軽井沢の場合は五・八%であり、県統計よりやや少ない。雇用者が性病持ちと見なした場合、郷里に帰したのであるうし、女性の健康のためと言うよりは客への「商品品質保証」の性格が強かったと考えられる。軽井沢町報・大正一五年十二月二十日号は「深刻な不景気をカタル遊興税」の見出しの下に「不景気風は年の瀬と共に益々烈しく吹きまくる……試みに十一月中における沓掛料理店の売上高を調べてみると……と言う不景気さである。」とある。また別の記事に某料理店の閉店を報じており、不景気に伴う競争の激化があったことは確実であって、いきおい性サービスにも力が入っ



たことであろう。

なお、密淫売と見なすことの出来る者の多くは沓掛地区に寄留しているが、新・旧軽井沢地区にも及んでいる。地元の記憶によっても戦後に至るまで、新・旧軽井沢地区にも売春を伴う飲食店があった。密淫売と見られる者の出身地は、隣県・群馬が五〇％と圧倒的多数を占め、次に同・新潟県が一二％と続く。軽井沢以外の長野県内は四％に過ぎない。北は北海道、南は福岡県から来ている(図5)。

三 軽井沢における格差

別荘地としての軽井沢は、地元民とは別の世界である。「健康診断書」が書かれた大正末から昭和の初めにかけて、別荘地・軽井沢は発展期を迎えていた。大正一五年七月に北白川宮が沓掛に、同年に前田侯爵がお水端に大別荘を建てている。昭和に入ると二年四月に竹田宮が旧軽井沢に、三年六月に朝香宮が千ヶ滝に、四年六月に伏見宮が雲場にそれぞれ別荘を設けた。多くの著名別荘が、他ならぬこの時期に建てられていた。そしてこれらの著名な上流階級に引き寄せられるように第一次世界大戦で成長した資本家が続々と別荘を建てるようになる。朝吹

登水子は三井の重鎮の一人、朝吹常吉の娘であったが、毎夏、家族と共に軽井沢で別荘生活を楽しんでいた。ところが昭和七年頃肋膜炎を患い、一人、東京の自宅で静養せざるを得なかった。しかし、それぞれ登水子専属のメイド、家庭教師、看護婦の三人にかしずかれてのことであつた。⁽¹⁾庶民には想像を越える豊かな人々が、多少年代が下るとはいえ同じ軽井沢で暮らしていたのである。軽井沢町報・大正一五年九月二十日号は、「通信状況より見たる最盛期の軽井沢」の見出しの下に、「特殊通常取扱数七八二四で前年に比し一七四六の増、小包扱一三四三五これも五六一の増、其他電信電話、為替貯金等の取扱数は三八五六件、前年に比して四一〇七という膨大なる増加を見ている。……更に避暑客の数より見る時は最大数七二七九人、前年に比して実に二四〇六という増加であつて、別荘の本年新築せられしもの五二戸等も見逃してはならぬ。……一昨年に比して遙かに優勢なる地位にあつた昨年の数字を本年は更に凌駕……年々軽井沢は発展しつつあり」としている。

地元民も少なからずこの別荘地発展の恩恵を受けていたであろう。大正一五年八月には軽井沢水道と沓掛水道の工事が始まっているが、これは小諸市を除けば北佐久

郡の市町村のさがけである。同年三月、沓掛婦人会が設立され、九月に軽井沢商工会が発足しているが、これらも軽井沢発展の勢いと無関係ではなからう。

「死亡診断書」や「健康診察書」が語る地元民の状況は、多くの書籍で伝えられる別荘地の華やかな空気とは全く異なっている。いやむしろ反対に、別荘地域の方が特殊であつたと云うべきだろう。好景氣に沸いた第一次世界大戦の終了一年後には米國で恐慌が発生、農村は長く続く繭価の低落に悩まされはじめる。また大正一二年の関東大震災の追い打ちを受け、全国的に不景氣の嵐が吹き荒れていた。軽井沢町報・昭和二年八月二〇日号は、「避暑客は多いが景氣は不印 商人連中大こぼし」の見出しの下に、「最近の調査に寄れば目下滞在中の避暑客は内外人を合算して八千五百三十七人であつて前年より稍々増加しているが、一般の不景氣に祟られて流石不景氣知らずとうたわれた軽井沢も今年ばかりは全く不印だと商人連は大こぼしである。」とする。また町報・昭和二年三月二〇日号は、「少数の富豪と多数の貧民」の見出しで「今日實際に生活を営み得る者は百人中僅かに二名の富者のみであつて、九十八人の大多数は所謂生活難に襲われて生活を苦しんでいる。云はば百人で創り上げ

た文化の実はたった二人に占有されて、九十八人は其の犠牲に供されて居る今日の社会が斯かる富豪の経済的横暴を許しているのは実に現代文化の大矛盾ではあるまいか。」とする。「死亡診断書」が示す数値が全国平均よりやや悪いとはいえ、格段に劣るものではなかったろう。密売淫も多少の別はあるこそすれ、当時にあつては全国至る地域に見られた。軽井沢の地元民の生活は基本的には他の地方と同様であつたと考えられる。しかし他と違つた特徴があつた。それは極端に大きな経済格差である。

「貧しきを憂えず、等しからざるを憂う」という言葉があるが、例え貧しくとも皆が同様であれば貧しいとは自覚しない。他との比較によってそれを知り、彼我の差が極端に大きければ、惨めな思いをすることも多かったであろう。当時の佐久地方は県下でも最も小作料減免など地主に対する農民運動が盛んな地域であり、社会正義には敏感であつた。軽井沢には現在もいわゆる旧住民、新住民、別荘民の間に少なくなつたとはいえ、依然として格差があるように思われる。そしてそれに基づき、互いの間に精神的障壁があるというが、「診断書」から垣間見える複雑な感情が今日まで尾を引いていると考えられる。

(北佐久郡軽井沢町長倉二六三―一四二)

(北佐久郡軽井沢町中軽井沢二二一四)

註

(1) 内閣統計局、一九三二、市町村別人口動態調査、大正一四年、国会図書館デジタル化資料、p139 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1465007>

(2) 軽井沢病院学習チーム、一九九六、軽井沢町の医療の変遷、軽井沢病院誌、軽井沢病院、p177―188

(3) 内閣統計局、一九二七、日本帝国人口動態統計 大正一四年、国会図書館近代デジタルライブラリー、p九四、<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/976256/52>

(4) 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課、「人口動態統計」 <https://www.google.co.jp/#q=%E5%B9%B4%E3%BD%A2%E5%88%A5%E6%AD%B8%E4%B%A1%E7%8E%87>

(5) 軽井沢町報は、軽井沢町立図書館デジタルアーカイブ、<http://p://karuzawalibrary-archive.jp/userguide/detail.html?node=detail&nid=22>で閲覧することができ、以下同様

(6) 長野県、一九二九、長野県統計書、昭和二年第一編、長野県、p六七

(7) 田中由宜、一九九六、診療余話、軽井沢病院誌、軽井沢病院、p八八

(8) 清原ふみ、一九九六、私の父の想い出、軽井沢病院誌、軽

井沢病院、p110～111

- (9) 厚生労働省、二〇〇四、平成一六年度人口動態特殊報告、性・年齢(5歳階級)別自殺死亡数・死亡率(人口10万対)の年次比較(自殺死亡率)、e-Stat、政府統計の総合窓口、http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&istID=000001048612&requestSender=search
- (10) 厚生労働省大臣官房統計情報部、二〇〇五、人口動態・保健統計課自殺死亡統計の概況、人口動態統計特殊報告、<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/suicida04/>
- (11) 笹原加代子、一九九六、思い出すいくつかの事、軽井沢病院誌、軽井沢病院、p七四
- (12) 廣野 進、一九九六、勤務三七年間の戯言、軽井沢病院誌、

軽井沢病院、p七五

- (13) 土屋 篤、一九九六、追憶、軽井沢病院誌、軽井沢病院、p七〇
- (14) 長野県、一九七二、長野県政史 第四編、長野県、p三三七
- (15) 長野県警察警務部警備課、一九五八、長野県警察史、各説編、風俗警察の変遷、p三〇三～三〇四
- (16) 穴戸 實、一九八七、軽井沢別荘史 避暑地百年の歩み、住まい学大系/〇三、住まいの図書館出版局、p一二三
- (17) 朝吹登水子、一九八五、私の軽井沢物語、文化出版局、p一七六
- (18) 北佐久郡志編纂委員会、一九八三、北佐久郡志、国書刊行会、